

(双葉東小) 学校 学校関係者評価書

令和6年2月13日(火)
(双葉東小学校) 学校関係者評価委員会作成

学校関係者評価委員会

実施日：令和6年2月9日(金) 午後7時30分～9時

会場：双葉東小学校 家庭科室

参加者：

(学校関係者評価委員)

学校評議員：大澤 孝彦・石川 和子・古屋 秀雄・
水口 征夫・渡井 真理・奥山 勝也

P T A 代表：五十嵐雅俊(会長)・小松 孝次(副会長)・

伏見恵美子(副会長)→欠席

(学校側) 校長 竹野 貢造・教頭 花形 健一・主幹教諭 向山 明見

I 学校側から提案された内容

- ・学校経営方針
- ・学校評価(教職員, 保護者, 児童アンケート)に基づく自己評価書

II 協議された主な内容

各項目における達成状況と改善策

- | | |
|-------------|-------------------|
| 1 全体評価について | 2 学校教育目標・学校経営について |
| 3 学校運営について | 4 学習指導について |
| 5 生徒指導について | 6 地域との連携について |
| 7 学校の特色について | 8 創甲斐教育について |
| 9 まとめについて | |

<学校関係者評価書>

I 全体評価

教職員評価では、いくつかの設問において、否定的回答(C・D)が若干名あるものの、全設問における肯定的回答(A・B)の平均が96.1%であり、高い評価である。全教職員による学校教育目標の具現化に向けた取組がなされていると言える。

保護者アンケートでは、学校の教育活動に関する設問において、肯定的回答の平均が84.1%と高い評価であり、保護者の学校の教育活動に対する信頼がうかがえる。家庭の教育活動に関する設問において、肯定的回答の平均は77.2%である。

児童アンケートでは、肯定的回答の平均が89.7%と高い評価であり、児童は伸び伸びと学校生活を送っている様子がうかがえる。

教職員、児童、保護者の3者の評価は総じて肯定的評価が高く、学校の教育活動について、教職員の教育活動、児童の学習や生活への指導が積極的に行われ、それに対する保護者の信頼が分かる結果となっている。来校時に確認できる校内の整理整頓の様子や挨拶を交わしている時の態度から、児童が明るく伸び伸びと教育をされていることが分かり、学校が楽しい、授業が楽しいというアンケート結果も実感として理解できる。

保護者回答に「わからない」が多かったことを学校側が課題と受け止めていることに同感である。現状でも学校は様々な手段で情報発信していることは理解できるが、さらに、学校の教育活動を保護者や地域に周知していくことが必要であると考えられる。

II 特徴

学校教育目標・学校経営についての肯定的回答の割合は、99.2%である。学校教育目標・学校経営について教職員全体の共通理解が図られ、教育活動が行われていると言える。学校運営についての肯定的回答の割合は、96.1%である。教職員それぞれが、チーム双葉東小の一人であると自覚し、協力して学校運営に参画していると言える。学習指導についての肯定的回答の割合は、94.2%である。より良い授業を目指し、教職員一人一人が努力を重ねていると言える。生徒指導についての肯定的回答の割合は、95.1%である。全職員が関係機関とも連携しつつ、情報を共有・共通理解を図りながら指導にあたっており、大半の児童は落ち着いた雰囲気の中で生活ができていると言える。地域との連携についての肯定的回答の割合は、92.3%であり、保護者や地域の声に耳を傾け、保護者・地域と連携しながら教育活動が行うよう努めていると言える。学校の特色についての肯定的回答の割合は99.2%、創甲斐教育についての肯定的回答の割合は98.4%である。教職員全体の共通理解が図られ、教育活動が行われていると言える。

III 今後の課題として意識されたいこと

【生活習慣の確立とICTの活用】

- ・家庭での情報機器の使用時間の多さと、睡眠時間や読書時間の少なさは関連があるのではないかと。心身の健康を育む上で早寝早起きなどの生活習慣の確立は重要である。学習用タブレットの家庭での利用も進めている中で、適切な生活習慣の確立と情報機器との適切な付き合い方が身に付けられるよう指導して欲しい。

【規範意識と自己表現】

- ・多様性が尊重される時代ではあるが、児童の髪型や髪色が自己表現の方法と見て取れるきらいがある。学校では、学びの中で身に付けられる自己表現の力を高められるよう指導して欲しい。

【PTA活動】

- ・組織が改編された中で、ボランティアを軸として活動する姿は理想的である。今後も時代と共に変化していくPTA活動を追究して欲しい。

【教職員の働き方改革】

- ・業務削減の難しさはあると思うが、校務支援システム等の活用を促進して、働き方の改善を今後も目指して欲しい。

【安心安全な環境づくり】

- ・学習面や生活面で、児童の中にわき起こる、できない・分からないといった気持ち（いじめ被害なども含めて）を安心して発することのできる環境づくり、保護者も含め、気軽に子供のことで相談できる体制の確立にこれからも努めて欲しい。

【地域との相互理解】

- ・地域は学校に協力したいという思いでいる。それがスムーズに実行されるようにするためにも、情報共有を密にし、相互理解が進むようにして欲しい。

【教育活動の周知と理解】

- ・学校は児童の健全育成のために非常に多くの活動を行っているが、周知されているとは言い難い。学校の取組について正しく理解してもらえよう、様々な方法で情報発信を行い、教育活動の周知に努めて欲しい。

★教職員アンケートで、否定的回答（C・D）があった評価項目を改善できるように、今後、取り組んでもらいたい。また、E回答（わからない）、無効回答があったことが気になる。（評価項目によって、支援員、司書、事務職員は、E回答である。）

※特記事項

- ・令和6年度より始まる学校運営協議会についての説明がされた。

記載責任者（双葉東小学校 学校関係者評価委員） 氏名：五十嵐 雅俊 印